苫東・和みの森づくり計画

先述の経緯、歴史、そして植生などといった諸条件を踏まえ、目指す和みの森像を設定しました。

苫東・和みの森が目指す森の姿

１．苫東の里山の復活

「和みの森」を含む苫東の森は、開拓の鍬が入れられてからは、薪を切り出し炭をつくり、そしてある時にはさまざまな生活の資材を生み出す森でした。本州のように長い歴史を持つ「里山」とはちょっと様相が異なりますが、人びととの関係はまさに里山でありました。
今は工業基地の中の森で、ちょっとばかり生活空間からは遠い存在になっていますが、決して奥山の森ではありません。
「和みの森」では、利用しながら森を保全し、さらに利用しながら森をつくる。こんなことがより日常的に展開される空間を目指しています。復活といいつつも、新しい形での「里山」の構築を目指します。

２．適地適木の森

基本的には、この和みの森がある苫東地域周辺の環境に適した草木が生い茂っていくことを促すような森づくりを進めます。設定するゾーン区分にもよりますが、現存種の調査データをもとにした植樹・育樹活動を行います。植樹をする際は、できるだけ和みの森にある種や苗、あるいは郷土樹種を使って植樹を行い、天然更新に近い形の森づくりに寄与していきます。一方、外来種等については丹念に除伐を行い、在来種の存続を促します。

その姿を実現させるために、3つの柱を設定しました。
多様な動植物で満ち溢れる森は、多様な人々の手によってつくられる必要がある…。そんな思いを達成するキーワードです。森づくりは、森づくりが得意な人や業者だけがやるものではなく、様々な人たちの楽しみとして捉えます。

①コミュニティーフォレストリー

「森は公共空間である」という考えのもとに、コミュニティフォレストリーを進めていきます。

コミュニティフォレストリーとは、森林管理を地域住民の参加によって進め、そこから得られる利益を地域住民が受ける、という考え方です。ここでは、利益は必ずしも金銭的なものだけを指しているわけではありません。地域住民・森林所有者・行政、そしてそれに賛同する人びとが、それぞれの立場で森づくりに関わることによって、新しいコミュニティが生まれ、森と人との新しい関係性も生まれることになります。これも大きな意味での「利益」と考えています。

②森のゲートウェイ

誰でもが森と関わり合うことができる「森のGate Way（ゲートウェイ：玄関）」をつくります。

幼児も障がいを持つ人も、そして歳を重ねた人びとも、誰でも森と関わり、森づくりに携わることができる多彩なプログラムを用意します。森を触媒として人びとが「化学反応」を起こし、きっと新しい関係性が生まれます。

③バリアフリーからバリアバリューへ

物理的な森のバリアフリーは難しい。でも、「こころのバリアフリー」を広げることや「バリアバリュー」の気づきの場となります。

森は決して平らではなく、障がいを持つ人びとには入りやすい場所ではありません。でも、何かを一緒につくること、森のどこかで一緒に過ごすことは可能です。
普段の生活の中で、なかなか交わることができない人たちが森の中で「一緒」になることで、互いの理解を深めることができそうです。
そして、「違うこと」が「差があること」ではないことに気がつくでしょう。それ以上に、さまざまな「研ぎ澄まされた感性」を知ることによって、互いに新しい発見をすることが可能です。
「和みの森」は、そんな新しい「気づき」の場として広がっていくことを目指しています。

和みの森　ゾーニング

各ゾーンでの森づくり活動

①森の育て方体験ゾーン

- 全国植樹祭会場で造成された区画。北海道と㈱苫東の所有。
- 基本的には、保安林の事業として保育が進められる区画である。
- 胆振森づくりセンターと協力をしながら、苗の保育活動を進める。
- 草丈よりも、苗の丈が上になるまで、草刈り活動を進める。
- 基本的には、植樹をしたボランティアに引き続き草刈り活動を進めてもらえるような声かけを、北海道森林活用課と協力して進める。
- 植樹ボランティアが活動を進めやすいよう、森と緑の会の助成制度を積極的に活用してもらえるような声かけに努める。
- 胆振森づくりセンターと協議をし、将来的には苗の移植などを進める。委嘱先は、森のコミセン中心ゾーン、または集いの広場周辺を想定する。
- 枯損木の除去や、それに伴う捕植についても、胆振森づくりセンターと協議する。

②集いの広場

- 全国植樹祭記念式典会場のうち、（株）苫東が所有する区画。
- 基本的に、現状のまま利用する。
- つた森山林や周辺の森による天然更新を促す。周辺からの植物の侵入のイメージ。
  植樹の場が必要な場合は、広場周辺の、風に当たりにくいところを使用する。

③森のコミセン中心ゾーン

- 活動の中心になるゾーン。植樹祭式典会場のうち、北海道が所有する区画。
- 集いの広場での活動拠点的な位置づけ。
- ミズナラの苗畑、ユニバーサル苗畑への播種や草刈りといった、大人数で進める森づくりの場として設定する。
- 苗畑については、必要に応じて少しずつ拡張できるよう、北海道と調整する。
- ユニバーサル苗畑についても、段差に変化を加えるなどして、より一層のユニバーサル化を図ることができるよう、北海道と調整を図る。
- ゾーン周辺の天然更新を促す。
- 苗畑の苗が育ったら、移植する。その移植先を今後検討する。

④森の恵み体感ゾーン

- 比較的若齢の広葉樹林部分。（株）苫東の所有。
- 立ち枯れた木が多く、林層もやや密になりつつある。
- 林産物を頂きながら、森の整備を進め、木々の成長も促していくという「里山」的な利用を楽しむことを目的とする場である。
- 具体的には、レクリエーションとしての燃料など（薪、木炭の材料、ほだ木）を得る。
- 危険防止のためと樹木成長促進のため、枯損木の除去を進める。
- 腐食土を形成するための林床整理（落ち葉かきなど）を進め、多様な樹種の発育を促す。
- 適度に林の中から木を抜いたり、林床を明るくするなどといった活動を通して、より多様な樹木の育成と成長を促す。
- 林内から抜き取る木の選別を（どの木を残すか、どの木を抜くかなど）、専門家の協力を得ながら進める。
- ブドウやコクワのつるの除去については、その有用性（果実をとり続ける）、安全性（木が倒れないか）、更新（成行きに任せる）の意義などを協議し、決定する。
- ユニバーサル木道や、シェルターにもすることができる道具用コンテナの設置（仮設）を進め、より活動のしやすい環境を創出する。
- 枯損木の除去、あるいは間伐、伐採の技術については、専門家（林業試験場など）に講師を依頼し、安全かつ効率的な活動の獲得に努める。
- これらの活動を進めるために、定期的に事業を展開し、多くの市民の参加を促す。楽しく、かつ深い学びを得ることができるような場と機会を提供する。別途、年次ごとに事業計画を立て、森づくり活動を展開する。
- 可能な範囲で、幼児や小学生も関わることのできる場と機会を創出する。
- 木道なども敷設し、車いすユーザーや高齢者も森に関わることができる環境を整備する。